

銭瓶塚古墳(糸島市)

中央前方のマウンドが後円部で、手前にあった前方部は道路等で削平されてしまった帆立貝形前方後円墳



説明坂/前方部が西を向いている



周濠や葺石を持つ/5世紀後半の築造

国史跡曾根遺跡群 ぜに がめ づか 錢瓶塚古墳

所在地 曾根字中 405-1 番地他 (1982年10月指定)

錢瓶塚古墳は、標高62mの丘陵上に位置し前方部を西に向けて築かれた前方後円墳ぜんぽうこうえんふんです。墳丘全長50m、後円部径37m、前方部長13m、幅28m、高さ5mを測り、周囲に掘られた幅5mほどの馬蹄形ばてい しゅうごうの周壕を含めると全長60m、幅50mの大きさを誇ります。

前方部の長さが後円部の直径に比べ著しく短いのが特徴で、その独特の形状から帆立貝はたてがい型前方後円墳と呼ばれています。

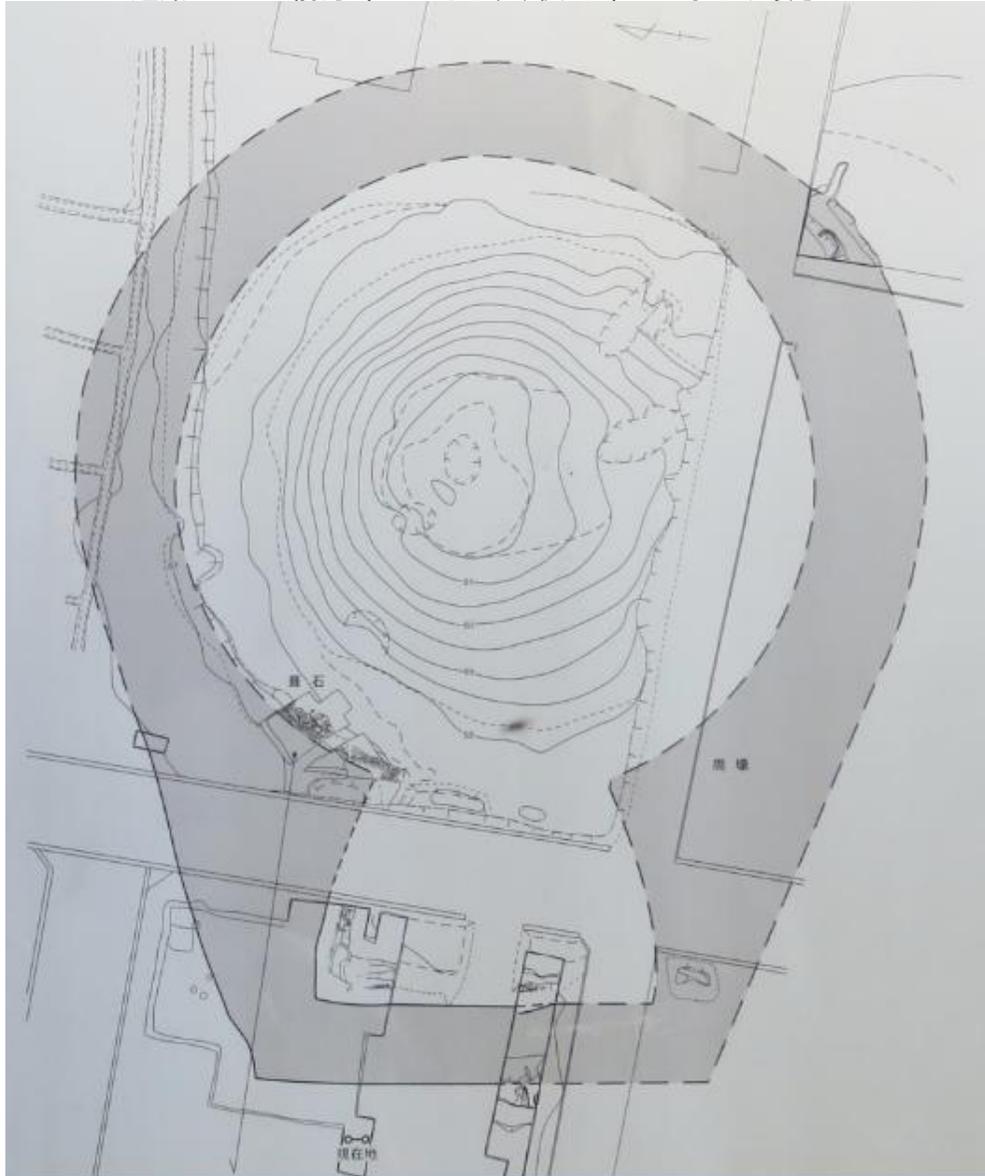
墳丘は3段に土を築き固めてつくられており、各段の斜面には河原石かわら いしを積み重ねた葺石ふきいしを施しています。発掘調査の結果、クビレ部では葺石が良好な状態で残っていることがわかりました。

周壕からは円筒埴輪しゅうごう えんとうはにわ、朝顔形埴輪あさがおがたはにわ、動物形埴輪どうぶつがたはにわや自然石を彫ってつくられた岩偶(写真1)などが出土しています。また、後円部頂上付近からは家形埴輪(写真2)が発見されています。

古墳は出土した埴輪やその形態などから、5世紀後半に築かれた怡土平野の首長の墓と考えられます。

錢瓶塚古墳は、わが国の古墳文化を研究する上で貴重な文化財です。大切に保存しましょう。

道路によって前方部のみならず、後円部の右手も破壊されている



周濠が説明坂の手前まで巡っていた/西側から見たところ



左手から見たところ



そこから後円部をアップで見たところ



前方部の残存状態が見て取れる/平原遺跡にある説明坂の写真より



これは後円部を右手(南側)から見たところ/三段築成



後田部の後方(南東側)から見たところ/道路で破壊された墳丘が痛々しい



境丘に登ってみよう



ここにも同じ説明板があった



墳頂に白いものが見える



国土地理院の三角点の標柱が立てられていた



ここが後円部の墳頂



墳頂から前方部方向を見下ろしたところ



参考ホームページ

<http://www.city.itoshima.lg.jp/s033/010/020/010/110/170/zenigame-kohun.html>

<https://ameblo.jp/indyaki12/entry-12321872966.html>

<https://blog.goo.ne.jp/noda2601/e/5e0c016384780cb8078eda6891b6a147>

<http://kofunmeguriwalking.web.fc2.com/zenigamezuka.html>

<http://blog.livedoor.jp/geibi/archives/49881759.html>

<http://obito1.web.fc2.com/itosimamaebaru.html>

